令和６年 12 月 15 日

若者環境フォーラム２０２４

午後４時開会

○司会　定刻になりましたので、ただいまより若者環境フォーラム2024をスタートします。本日は御参加いただき、ありがとうございます。

本日の司会を務めます世田谷区環境サポーターの山本です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たり、世田谷区環境政策部環境・エネルギー施策推進課の山本課長よりオープニングメッセージをいただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○山本環境・エネルギー施策推進課長　皆さん、こんにちは。世田谷区環境政策部環境・エネルギー施策推進課長の山本です。本日は若者環境フォーラム2024に御参加いただきましてありがとうございます。

近年、世界各地で記録的な高温、大規模な森林火災、巨大化した台風など、地球温暖化の影響と考えられる気候変動が頻発しております。甚大な被害が世界各地で発生しております。東京都心でも、2021年には７回だった熱中症警戒アラートが今年は37回も発令されるというほどの猛暑が記録されております。日本国内においては、能登半島で発生した豪雨被害も記憶に新しいものでございます。

世田谷区では、こうした気候危機の状況を踏まえまして、４年前から、令和２年10月に世田谷区気候非常事態宣言を行いまして、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すことを表明いたしました。2050年の目標達成のためには、大人から子どもまで一人一人が気候危機問題を自分事として捉え、環境への影響を考えて、行動を変えていくということが必要になります。自分たちに何ができるかを考え、行動変容を促すことを目的として、区では、若者たちが主体となった取組事例の発表や意見表明、また、若者同士の交流の場として、令和３年度から若者環境フォーラムを開催しております。これまでに御参加いただいた方からは、ごみの分別、節電やＬＥＤ切替え等といった身近な取組を着実に行っていきたい、あるいは、人の意見を肌で感じることで次の一歩につながる、そのきっかけとなるこのような機会がたくさんあるといいといったようないろいろな声が聞かれました。

こうした取組を継続し、環境に配慮した行動を実践するきっかけづくりの輪を広げていくため、今年度も「『１人の100歩より100人の１歩』～できることからはじめよう！～」ということをテーマに、皆さんの今の最新の取組事例の共有や意見交換により、さらに多くの方の１歩、２歩、３歩と進めていければと思っております。また、今年は環境活動家

として、特に若い世代への情報発信に尽力されております露木しいなさんをお呼びしまして、登壇をお願いしております。若い世代の様々な視点から活発な議論を交わしていただければと思います。今日このフォーラムを準備してくださいました環境サポーターの皆さん、それから、登壇いただく皆さんには心から感謝いたしまして、開会の挨拶といたします。それでは、皆さん、よろしくお願いいたします。

○司会　山本課長、ありがとうございました。

それでは、フォーラムの本題に入っていきます。話題提供と事例発表、それにパネルディスカッションを行ってまいりますが、ここからは、ＮＰＯ法人新宿環境活動ネット代表理事の飯田貴也さんに進行していただきます。飯田さん、よろしくお願いいたします。

○飯田　改めまして、皆さん、こんにちは。ここからの進行を担当します新宿環境活動ネットの飯田と申します。よろしくお願いいたします。

私自身、今、自己紹介したように新宿環境活動ネットという環境教育とか環境活動を推進するＮＰＯというところで仕事をしています。でも、自分を振り返ると、もともと環境に興味を持ったのは高校１年生のときで、生徒会活動を通じて環境活動を始めたのがきっかけでした。そこから10年ちょっとたって、今こうして高校生、大学生の皆さんと改めてこういう場を持てることをすごくうれしく思っていますし、いろんな話題提供で情報交換できることを楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

では、最初に、この後、６団体の市内外で環境活動を推進している、活動している皆さんと一緒に場をつないでいくんですけれども、まずは登壇する皆さんの御紹介をできればと思います。簡単に一言ですが、御挨拶いただければと思います。

まず初めに、本日この会場ではなく、オンラインからの御参加になりますＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトの皆さんです。もしよかったら、一瞬だけ顔を出せますか。よろしくお願いします。

○ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクト　ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトの企画の代表をしています櫻井コウタロウです。よろしくお願いします。

○飯田　では、続いて、会場からの御参加の皆さんを紹介させていただきます。慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクトの皆さんです。

続いて、東京都市大学ＩＳＯ学生委員会の皆さんです。

続いて、上智大学環境保護サークルGreen Sophiaの皆さんです。

続いて、東京農業大学ボランティアサークルいそべやの皆さんです。

最後に、本フォーラムにも事前に御協力いただきました世田谷区環境サポーターさんです。

本日は、この６団体のユースの皆さんとともに進めていきたいと思います。後ほどそれぞれの御活動などを詳しく伺えればと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、この６団体の皆さんの話題提供ですとかトークセッションに先立って、本日はスペシャルゲストの方にお越しいただいております。先立って話題提供いただければと思っております。

本日は、スペシャルゲストとして、環境活動家、化粧品開発者である露木しいなさんをお招きしています。露木さんは2001年に神奈川県横浜市でお生まれになって、その後、高校時代を世界一エコな学校とも言われているインドネシアのGreen School Baliで生活を送られました。その後、日本に戻られた後、ＣＯＰへの参加ですとか、御自身の経験を踏まえた化粧品開発など、環境やサステーナビリティーをテーマにして幅広く御活躍いただいています。今日は私たちにとっても、環境活動をこれから広めていくとか深めていく上でもいろんなヒントをいただけるかなと思って、私自身もお話を聞けることを楽しみにしているところです。もし視聴者の皆さんとかパネラーの皆さんも何か御質問がありましたら、チャット欄にお寄せいただければと思います。

では、この後、露木さんの話題提供にバトンタッチしていきたいと思います。露木さん、よろしくお願いいたします。

〇露木　皆様、こんにちは。環境活動家の露木しいなと申します。今日は、私がなぜ環境活動家を始めたのかというお話と、あとはどんな経緯でその活動を始めたのかということをお話しできればなと思っています。よろしくお願いします。

まず初めに、私が環境問題に興味を持ったきっかけのお話です。私が高校１年生から３年生のときの高校３年間はインドネシアのバリ島という島におりました。ここに何で行っていたかというと、もともとは語学留学をしたくて、高校生のときから留学に行ける学校を世界中で探していたんですけれども、英語を学べるというだけの留学はちょっと面白みがないんじゃないかという私のお母さんのアドバイスから、世界中にある面白い学校を探していたときに、たまたまバリ島にあるGreen School Baliという学校をネットで見つけて、私は中学生のときまで環境問題とかに全く興味もなかったんですけれども、自然が大好きだったというのもあって、このGreen Schoolを見つけたときに、自然の中で勉強できる、すごく楽しそうな学校があるということをきっかけに、この学校に入ることになりま

した。本当に運命的な出会いで、この学校を見つけることになったんですけれども、行ってみて分かったのは、とにかく環境問題にすごく特化して勉強している学校でした。世界で一番エコな学校とか、最先端エコスクールと言われるぐらい、建物だけではなくて授業のスタイルもユニークで、環境に配慮したり、環境について学んだりということをやっておりました。この写真を見てから、果たしてこの建物は何なんだろうと多分気になっていると思うんですけれども、これは学校の校舎のお写真で、実はこの学校のキャンパス内にこういう建物が10戸ぐらいありまして、これは全部竹でできております。行くとすごく面白いんですけれども、こんなに大きい建物なんですけれども、ネジとかも全く使われずに、昔の建物の建て方というのを、伝統を大事にしながら建てられている建物です。

Green Schoolはどんな学校なのか説明したいと思います。まず学校が掲げているのが、世界のグリーンリーダーを育てることです。これが学校の目標なので、これに沿って、国語、数学、理科、社会、日本で学ぶような授業が全部、環境問題、社会課題とつながっているような形でした。また詳しくお話しします。

生徒数は約500名ぐらいで、国籍が約40か国、学年でいうと幼稚園から高校までありまして、私は高校３年間ここに通っておりました。

建物です。これは全部、竹です。

中から見るとこんな感じで、特徴は外と中の間にも、教室と教室の間にも壁がないところかなと思います。これは竹だけでできているのに３階建てなんです。ちょっと気づいた方もいらっしゃるかもしれないんですけれども、電気とかがほとんどないんです。ちょっと小さいランプがついていると思うんですけれども、ふだん日中に電気をつけて勉強するということはなくて、曇りの日でも、雨の日でも、晴れの日でも、外の光だけでふだん勉強をしています。写真には入り切っていないんですけれども、この右の上のほうに、天井のところに竹ではない穴が開いているというか、空洞があって、そこにガラスのようなものが載っているんです。なので、上から下にちゃんと光が入ってくるような構造になっています。

あと、食べ物も、毎回、御飯が出されるときにごみが出ないように全部バナナの葉っぱで出てきます。日本だったら、昔は笹とかを使っていたのかと思いますが、バリ島ではバナナがそこらじゅうに生えているので、バナナの葉っぱを使って、使うことによって循環される植物だから、伐採とかではないんですけれども、こういうふうに使っています。

これが私が卒業したときの１学年、22人と先生のお写真になります。私はどこにいるか

というと、真ん中の下の列にいる、白い洋服に花柄のパンツを履いているのが私です。

では、このGreen Schoolに通って、何がきっかけで具体的に環境問題に興味を持ったかといいますと、Green School Baliの授業の中でバリ島にあるごみ山に行くことがあったんです。こんな感じです。当時、学校の授業中だったので写真とかは撮っていなかったので、これはネットから引っ張ってきているものなんですけれども、見たごみ山というのはまさにこんな感じで、バリ島はビーチがいっぱいある分、ビーチに流れてくるごみと、あと地元の人が本当に悪気もなくビニール袋を川に捨てるという習慣があって、ごみ収集車とかが回っていないので、家で燃やすか、川に流すしかないので、ビニール袋以外もいっぱいあるんですけれども、最終的に全部こうやって、１か所、こういう高さ９メートルぐらいあるごみ山にたどり着きます。

ここに行ったときに、ごみ山って、皆さん、世界のどこかに存在しているというのは何となく分かると思いますが、実際にこれを見ると結構ショックで、何かというと、ここはめちゃくちゃ臭いんです。実は野生の動物とかがここに住んでいて、野生なのかな、町で生活している牛がいて、その牛がこのごみを食べて生活していて体が変形している、そういう姿を見たり、地元の人がここでお金になるものを拾って生活をしていたりという姿を見たときに、こういう問題って過去にも学んだことがあったけれども、本当に存在しているとあまり思えていなかった、自分事化できていなかったんですけれども、見た瞬間にあまりにも衝撃的で、そこから自分が過去に学んできたような社会課題というのが一気にリアリティーに感じてきたわけです。そこから社会課題について学んでいって、やっぱり何かしていきたいという思いが出てきました。

そして、具体的に行動するきっかけになったのは、私が高校３年生のときに、この真ん中にいるピンクの洋服を着ている方、皆さん、もう分かりますかね。グレタ・トゥーンベリさんという方に、国連の気候変動会議、ＣＯＰに行って、参加したときにたまたまお会いしたということが自分的にすごく大きな出来事でした。

知らない方のためにちょっと説明させていただくと、グレタ・トゥーンベリさんはスウェーデン出身の方で、今では本当に気候変動の顔、環境活動家といえばこの方というぐらい、すごく有名な方ですけれども、当時、彼女は毎週金曜日に学校をお休みして、スウェーデンの国会議事堂の前でこういうふうに１人で座り込んで、こういう横に置いてあるパネルに、気候変動に対して対策をしてくださいということを政府に訴えるようなことをやっていました。この彼女が始めたストライキはたった一人で始めたのに、１年後に歴史上

最大の気候ストライキと言われるぐらい、世界約400万人の人が同じようにこういうふうにストライキを初めていった一番最初のきっかけをつくった方だったわけですね。

私も、彼女がスタートして、世界中に広まっていったストライキのうちの一つに参加させてもらったことがあって、スペインのマドリッドで開催されたものだったんですけれども、そのストライキに参加したときに、ぱっと周りを見ると同世代の年齢の人たちがたくさんいて、10代、圧倒的に若い年齢層の人がいて、すごく感じました。何で世界ではこんなに行動している人が多いのかなと。日本に帰ってくると、気候変動とか地球温暖化という言葉は日常会話にも出てこないし、多分、そのときは７年ぐらい前だったから、日本の報道の分野でも全く報道されていないというのが現状だったので、何で海外ではこんなに行動している人が多いのかと考えたわけです。

そのときに自分が思いついたのが、情報の格差が行動の格差を生んでいるのではないかということです。まず、気候変動の危機に全く気づいていない人がほとんどなのかなというところです。

実際、情報の格差という面で見ると、実は日本はランキングがすごく低くて、各国で報道できる内容の自由度というのは国によって違うと言われていて、毎年こういうふうに報道自由度ランキングというのが出るんですけれども、日本はいつもＧ７の中でも最下位で、ランキングが毎年下がっていっているような状況です。なので、世界ですごく危機的な状況になっている問題、みんなが当たり前に知っているような問題が意外と知られていないということもあり得ると。

すごく簡単なことではあるんですけれども、そのときに思ったのは、まず知ってもらいたいなと思いました。実は私は日本に帰ってきてから慶応義塾大学の環境情報学部というところに入学をして、まず日本の環境問題の現状について知ろうと思って勉強はしていたんですね。だけれども、やっぱり毎日、勉強しているだけだと世の中が何も変わっていかないんじゃないかと思って、１年間通ってすぐに休学をしました。そして始めたのが、自分は学校を休んで、ほかの学校で環境問題についての講演活動をするということをやりました。日本の学校の教科書を見ると、まず、環境問題について取り上げられているのは、私が当時、小学校、中学校にいたときとかは２ページぐらいしかなくて、それで環境問題を自分事化しましょうというのはやっぱり結構難しいなと思ったので、自分が知っていることを伝えたいということで講演活動を始めました。なので、これが自分の主な活動なんですけれども、今までで約220校ぐらいの学校を回って、３万2000人の方にお話をさせて

もらっています。

一方、実はこの講演活動と同時進行で行っているのが、人と地球に優しい口紅づくりになります。これは先ほどのGreen Schoolにいたときからスタートは始めているので、講演よりも一番長くやっている活動です。こんな感じで、学校の理科室の端っこで口紅を研究しているのがスタートなんですけれども、妹の肌荒れがきっかけで、まず、ナチュラルと書いてある化粧品を使えば安全だと思って、それを買って使ってみたときに妹の肌がそれで荒れてしまったので、ナチュラルとかオーガニックと化粧品に書いてある言葉、ちゃんと何％自然由来を入れないとナチュラルという言葉は使っちゃいけないよねとかという法律がないことを知って、そんなことがあるんだと思いながら、まずは妹に安心して使ってもらえる口紅を１本つくりたいと思って、先ほどのこの研究を始めました。

なので、最初は別に人に優しい、地球に優しいとかということを意識していたわけではなくて、妹にとにかく使ってもらえる、だから、人に優しい口紅だけをとにかくつくろうと思っていたんですけれども、いろんなことが分かっていきました。初めて自分で物を作っていくと、今まで自分でただ物を買って消費するという消費者の立場では見えなかった背景がたくさん見えてきて、生産から処理の過程でできる、起きてしまっている社会課題に加担せずに物づくりをやっていきたいと思って、そこから人と地球、あと動物に優しい口紅を１本つくろうということで、ずっとこれをやってきました。

Green Schoolを卒業してから約４年がもうたつんですけれども、高校１年生からつくっているんですけれども、そこから卒業しても実はずっと地道にやっていて、いつかこれが妹だけではなくて、ほかの人にも使ってもらえたらいいなと思って、商品化をしたいということを考え始めていたんですけれども、商品化をするとなるとやっぱりお金が必要で、バイト代でためられるような金額ではなかったので、クラウドファンディングというのをやりました。

これは本当につい去年やったばかりなんですけれども、クラウドファンディングで、口紅はまだ完成していないんだけれども、生産できていないんだけれども、こういう物をつくりたいからぜひ先にお金を出してくださいみたいな形で、リターンとして口紅をお渡しするという形を取って、このクラウドファンディングを行いました。そして、無事こういうふうに商品化をすることができたということです。

この物づくりを通して、あと、私が行っている講演活動もそうなんですけれども、すごく大事だなと思うのが、やっぱり社会課題というのは、ふだんの生活の中ではほとんど見

えないところにあるということです。自分がふだん朝起きて、仕事に行って、学校に行って帰ってきてという中で、社会課題というのは多分ほとんど見えないし、触れることがないと思うんです。では、どこにあるかというと、日々こういうふうに選んでいる物の背景、前後にあるんです。なので、自分たちの生活の中でどんなことができるかと考えると、やっぱりふだんの選ぶという選択が本当に大事なんだなということに気づかされます。

まさに日々の選択が今の世の中をつくっているよというところです。今の世の中というのは、過去に自分たちが選んできた、または先輩方、もっと前の世代の人たちが選んできたものによってできているし、今、選んでいるものが今後の未来をつくっていくというところです。

最後に、このメッセージを皆さんにお伝えしたいなと思っています。これは私が学生ながら環境活動をしたりとか、こういうふうに人と地球に優しい口紅をつくる上で大切にしていることです。

この大切にしている言葉、メッセージを一番最初にもらったのは、この姉妹になります。知っている方もいらっしゃるかもしれないですけれども、この姉妹はGreen School出身で、右側のお姉ちゃんのほうが私と同い年になります。バイバイ・プラスチックバッグという団体をやっていて、バリ島で捨てられるビニール袋のごみ拾いをビーチで行い始めたのがきっかけで活動が始まって、そこからそれをずっと続けていって、いろんなステップを踏みながら、ちょっと飛んじゃうんですけれども、いろんな過程があって、最終的に何をしたかというと、この２人はバリ島で使われるビニール袋を法律で禁止にするということまで10代で成し遂げた姉妹になります。

身近にいわゆる社会を変えているという人たちがいて、彼女たちがよく言っていた言葉というのが、社会を変えるって大人になるまで待たなくていいよねということをよく言っていました。英語でYou don’t have to wait till be a grown up to make a changeというメッセージです。私が活動をしていく上でも、学生だとまだ勉強している年だし、部活をやって、塾に通うということ以外に何もやらないのが逆に当たり前。だけれども、もし自分の心がときめくような何か変えたいという思いがあったり、何かもやもやするという気持ちがあって、でも、そこで年齢で諦めるのではなく、いや、できるよねというのが彼女たちのいつも口癖のように言っていた言葉で、私も自分が活動する上ですごく大切にしている言葉なので、よかったら今回はぜひ皆さんにも持ち帰っていただきたいなと思っ

て、最後のメッセージにしました。

私からのお話は以上になります。ありがとうございます。

○飯田　露木さん、ありがとうございました。ふだんメディアとかで見たりとか、商品を見るだけではなくて、やっぱり生で、表情つきでライブで聞くのはすごく刺さることがあるなと改めて思いました。

この後、５分ぐらい質疑応答の時間を取っていますので、御質問がある方がいらっしゃったら教えていただければと思いますが、皆さん、いかがでしょうか。司会の山本さん、いかがでしょうか。

○司会　海外の学校に行ったという露木さん自身の経験だからこそ得られる、そういう新しい視点で、僕にとってはすごく新鮮なお話で、面白いなと思いました。

１つ質問なんですけれども、露木さんは情報格差というのが行動の格差だと、そのようなことをおっしゃっていたのですが、情報の格差というのは具体的に、我々若者に対してどんな情報があれば、僕ら若者が行動しようというふうに思ったり、何かしら変えてみようかなという勇気を受け取る、そういうことができるんでしょうか。ぜひお聞きしたいと思います。

○露木　御質問ありがとうございます。まず、知るというところから行動というのは、さっき知ればすぐに行動できるというような見え方になってしまったかもしれないんですけれども、知るということの後に行動まで行くというのは実はハードルが結構たくさんあるので、行動してもらうというところまで本当に考えてロードマップをつくるのであれば、まず知るというところで今のリアルな現状を知る。気候変動について、例えば平均気温が1.5度まで行ったときにどういう世の中になってしまうのか、それ以上に気温が上がったときにどういう世の中になってしまうのかというリアルな情報、データが必要なんですけれども、では、そのときに行動するところというのは、やっていくことで変わっていくよという希望だったり、あとはやっていて自分が楽しいと思えるような活動でないと、やっぱり行動というのはなかなかできないのかと思っています。

例えば私の話で言うと、環境というテーマをちょっと取り除いたとしても、講演というのは好きなんですね。別にどんなトピックでも講演をすることは好きで、なぜなら人の前に立って話をするのが好きだし、自分が考えていることをシェアするのが好きだし、たくさんの人に会えるのがすごく楽しいというのもあります。口紅に関しては物づくり、小さいときから図工とかも大好きだったので、そういう物づくりも好きなんです。だから、常

に環境問題の解決のために何か行動しなきゃいけないという危機感だけではなく、自分が楽しいと思えることとどう結びつけられるかというのも継続していく上では本当に大事なのかと思います。危機感からでも行動は生まれるんですけれども、継続していくということを考えると、そこにプラスアルファ、楽しさというのも絶対必要だと思うので、情報を最初に知るというところから、楽しさというのは必ず必要かなと思っています。お答えになっていますか、大丈夫ですか。

○司会　ありがとうございます。それに関して、情報ということについてもうちょっと具体的にお聞きしたいんですけれども、露木さん自身は、いろんな人の前でお話をする機会の中で、どういう視点の情報を伝えようというポリシーみたいなものはあったりしますか。明るいメッセージを伝えたいだったり、そういうような感じで。

○露木　すごく具体的になってしまうんですけれども、例えば私は小学校から大学までの学校で講演を行っていて、講演を聞いてくださる方の対象によっても内容を変えるようにはしているんです。なぜかというと、やっぱり刺さる内容というのは学年によって意外と違ったりして、小学生はどんなことが一番心に残るかというと、例えばトピックで海洋プラスチックごみについて説明をするときに、一番衝撃的な小学生に残ることって、海にいる生物、魚とか鯨が間違えてプラスチックを食べてしまっている、それは小学生にとっては結構衝撃的なことなんです。高校生、大学ぐらいになってくると、プラスチックごみを生物が食べてしまっているということよりも、海に流れていってしまったプラスチックがマイクロプラスチックになって最終的に自分たちの体に今入ってきている。例えば魚を食べることによって、または海鮮物とかを食べることによって、今の人は大体クレジットカード１枚分のマイクロプラスチックを平均で摂取しているというデータもあって、そういうデータがすごく響くんです。なので、自分以外の誰かが傷つくということにすごくショックを受けるのが小学生で、年齢が上がってくると自分に直接的に影響があるということのほうが結構ショックに感じて、それが行動につながるということがあるので、学年によって内容は変えているんですけれども、最初の入り口としては、その現状を伝える。特に学年によってそうやって分ける。その後の後半の話としては、やっぱり現状を知ってショックを受けちゃう子がすごく多いんです。ヨーロッパのほうとかでエコ・アングザイエティ、エコ不安症という言葉が存在するぐらい、環境問題について知ることによって今後の未来に希望を感じない、不安になって逆に行動ができない症状というのがあるんです。

　そうなってしまったら、現状を伝えたのに行動ができなかったら意味がなくなってしま

うので、最後は行動していくことによって変わっていけるよというようなポジティブなメッセージをできるだけ伝えるようにしています。例えばこういう地域ではこういうことをして、こういうふうにこの地域がよくなっていったんだよとか、事例をできるだけ多くお伝えすることによって、では、自分がやったら変わるかもしれないというふうに勇気を持ってもらえるので、現状はこれですよと言って終わるのではなくて、最後は、できるだけ希望で終われるようにしています。

○飯田　本当はもうちょっと質問を受けたいところなんですが、お時間の関係もあって、一旦このあたりで区切らせていただければと思っています。この後、パネラーの皆さんの発表とかトークセッションが続いていくんですけれども、露木さんの危機感からも大事だけれども、楽しいからこそ行動が続いていくということとか、露木さん御自身でいうと、講演が好きとか、人と会うのが好きとか、物づくりが好きみたいな、好きというのが巻き込み力の一つの原動力なのかと思ったので、この後、こちらのフォーラムでも、その辺のキーワードをもとに話を深めていければなと思っています。露木さん、本当に貴重なお話をありがとうございました。

では、ここからは登壇者の皆さんとともに事例発表とトークセッションに移っていければと思います。この後の流れを簡単に御紹介させていただきます。本日、冒頭にも御紹介していただいた６団体の皆様に、この後、５分程度で事例紹介、日頃の活動の取組についてお話を伺えればと思っています。３団体ごとに質問タイムを設けたいと思っていますので、もしも何か御質問等ある方はチャット欄に御記入いただければ私のほうで拾わせていただければと思っています。３団体に御発表いただいて、質問タイムの後、最後に残り時間で全体のトークセッションという形で進めていければと思っています。よろしくお願いいたします。

では、早速ですが、１団体目の御発表に移らせていただきたいと思います。１団体目は、オンラインからの御参加になります。ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトの皆さんです。よろしくお願いいたします。

○ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクト　ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトの櫻井コウタロウと申します。よろしくお願いします。

私たちＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトは、活動目的は大きく！「ＳＤＧｓの目標達成」というのを掲げてやっています。ＳＤＧｓ目標達成のためには何が必要かというと、認知度の向上、地球で何が起きているかをそもそも知っているかどうか、知らなかった場

合は知ってもらうというところです。そこから無意識の選択が持続可能なものへというところです。先ほどおっしゃった口紅もそうですけれども、環境にいい口紅と、環境に悪いと言ってはいけないですけれども、環境に悪い口紅があるとしたら、環境にいい口紅を無意識の状況で選べるようなというところの意識改革をしていく。そして、選択の時間の考え方短くないですか？　と書いてあるのは、例えば環境問題は１年で解決するような簡単な問題ではなくて、10年、20年でどんどんやっていって、ある程度解決していくような問題になっていると思うんですけれども、例えば会社さんとかだと、10年とかではなくて、２年とか１年で利益を出さなければいけないからという考え方をしてしまっているところで、考え方短くないですかというので書いてあります。便利＝イコール豊かさであるような社会につなげるということで、自分の問題として行動につなげていこうということで、今回、世田谷区さんのフォーラムのお題にもなっていますが、１人の100歩よりも100人の１歩のほうが未来につながるよということでやらせていただいています。

活動の写真は、こんな感じで上げています。テレビに出させていただいたりとか、新聞に出させていただいたり、区に陳情に行ってみたりとか、勉強会を開いたり、いろんなことをやっています。僕自身、貧困に興味があって活動させていただいているんですけれども、やっぱり知ることは大事で、ちょっと小さいんですが、これは小５のときの僕なんですけれども、同じぐらいの子どもが環境問題について話してくれたというのが衝撃で、今こうやって環境問題についてやったりしています。

ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトの特徴として、小学生から大学生まで幅広くメンバーがいます。約40人ぐらいですかね。みんなおのおの興味があることが違くて、ロボット工学に興味があったりとか、僕みたいに貧困に興味があったりとか、いろんなところに興味がある子たちがいろいろと集まっています。ＳＤＧｓの目標とかを学んで、協力行動して、発信しています。ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトの魅力としては、他学年との関わりが大きいというのがあって、僕たちも小学校に勉強会をしに行っているんですけれども、高校生とかよりも小学生のほうが考えが柔軟だったりするので、僕もあったりするんですけれども、大人とかは意外と凝り固まった思考とか、そういうのがないところに自分たちから行って勉強会をするというのも僕たちとしても学びがあるので、いろんなことをやっています。

主な活動として４つ挙げるとしたら、学び、勉強会への出席とか、学校に授業をしに行ったりしています。あとは広報、勉強会に行ったり、主催したり。あとは陳情、最近は僕

は大分にいるのであまり行けていないんですけれども、地方の自治体に訪問したりもしています。企業さんとの連携もやっていて、大豆ミートとかいろいろあったりするんですけれども、マルコメさんといろいろやったり、ＴＢＳさんといろいろ企画してみたりしています。

こんな感じで様々な形で活動しています。入る条件も特になくて、学校のようにメンバーが入れ替わることもないので、どんどんメンバーが増えていく感じになっています。長期的にみんなで活動できますし、今回は僕１人ですけれども、今年は受験生が多いのであまり活動できていないんですけれども、来年からはどんどん活動していこうと思っていて、長期的に活動できるから仲良くなりやすいし、さっきも言いましたけれども、小学生とか高校生、中学生、大学生、いろんなメンバーがいるので、そこから面白い発展につながっていくところが私たちの面白いところかなと思います。

ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトは、最近、全然更新できていなくて申し訳ないんですけれども、インスタグラムをやっています。何か興味があったり、入りたいなというのがもしありましたら、インスタグラムのＤＭとかでお待ちしていますので、ぜひぜひよろしくお願いいたします。

御清聴ありがとうございました。

○飯田　櫻井さん、ありがとうございました。御質問がある方はチャット欄によろしくお願いいたします。

続いて、２団体目の発表に移らせていただければと思います。２団体目は、慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクトの皆さんの御発表になります。では、御準備、よろしくお願いいたします。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト　私たちは慶應義塾湘南藤沢高等部から来ました環境プロジェクトという団体です。タイトルにもあるとおり、高校生が有志で活動を行っています。先ほどびっくりしたんですが、ＳＦＣキャンパス、先ほどの露木さんが通っていらした大学の付近のキャンパスにある慶應義塾湘南藤沢高等部にて活動を行っています。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト　ＳＦＣは、神奈川県藤沢市にある中高大一貫校の学校です。多様なバックグラウンドを持つ生徒が在籍しており、男女共学で、全校生徒の約25％が帰国生です。帰国生というのは、いろんな国から来ている人たちが集まっていて、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどをはじめ、タイ、カンボジア、台湾、

インドネシア、そういうマイナーな様々な国からも帰国生が集まっています。大学受験がないので、自分の興味とか、やりたいことに没頭できる、そんな自由な校風とカリキュラムが特徴の学校です。

環境プロジェクトは、本校唯一の有志団体です。この環プロに所属する生徒は、それぞれ生徒会や委員会、部活などを別にやっており、それに加えて環境プロジェクトでも活動を行っております。

〇慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト　環境プロジェクトは、22年前の2002年に発足しました。現在のメンバーは約70名です。左の写真にあるように、スターバックス社と連携してみたり、右の写真にあるように、毎年、この若者環境デーとフォーラムに参加しています。

現在は６つの班に分かれて活動しています。企業連携班、高校生環境連盟、教育デザイン班、たべもの班、コミュニティ班、広報班の６つです。我々は広報班になります。今日は特に企業連携班と教育デザイン班の活動について御紹介します。

〇慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト　企業連携班の行っている活動の一つ、ユニリーバ社との連携について紹介をします。

まず初めに、ユニリーバについて紹介いたします。ユニリーバとは、サステーナブルな暮らしを当たり前にするを目標とし、製品の開発、販売を行っている会社です。主な販売製品は、ＬｕｘやＤｏｖｅ、Ｖａｓｅｌｉｎｅなどが挙げられます。

現在、私たちは、ユニリーバ製品の空プラスチック容器、そして、学校から出る廃棄プラスチックで作る新たなアップサイクル製品の開発に取り組んでいます。現在は学校で出る廃棄プラスチックの中でもリサイクルできる資材を検討しているところです。以前は消しかすをリサイクルにつなげようと学校内で消しかす回収をし、検証していましたが、消しかすは技術的にまだリサイクルが不可能ということで、実現が少し難しい状態になっています。しかし、ユニリーバの方と打合せをして、消しかすを少量ならリサイクルにつなげられるかもしれないということで、そちらについても進めていきたいなと考えています。

〇慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト　ほかにも企業連携班は、地域の農園である秋葉農園さんとのプロジェクトも行っています。具体的にどんな活動をしているかといいますと、スターバックスさんの店舗が学校の付近にあるんですが、そちらの店舗から出た豆かすを肥料として再利用するための橋渡しの役割を企業連携班が行っています。

また、秋葉農園さんとは、先ほど紹介したほかの６つの班がそれぞれ様々な形で関わっていて、例えばたべもの班という班は秋葉農園さんと協力して、食品ロスを削減するための、秋葉農園さんが作っている野菜を利用したレシピを作ったり、あとは広報班でもこの秋葉農園さんとのプロジェクトについていろいろな形で紹介しています。

最後に、教育デザイン班ですが、今、環境プロジェクト内で最も動きが活発な班の一つとなっています。先ほどの勉強会さんとも少し似ていると思うんですが、子どもたちに環境問題に関する出前授業を主に行っています。学生なので、どうしても休みを縫って訪れているんですが、年に３校ほど訪れていて、これまでに3000人以上に授業を提供してきました。この授業というのは、大体は食品ロスだったり、水質汚染だったり、あとは電気に関する授業などを提供しています。

私たちの一番大きな目標というのは、環境を自分たちの身の回りのもの全てと広義していて、活動も含め、これをいろんな方に広めることを目標としています。今後も若者環境デー、環境フォーラム、ほかにも様々なイベントを通じてこの目標を達成していきたいと思います。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

○飯田　ＳＦＣ環境プロジェクトの皆さん、ありがとうございました。

では、続いて３団体目の発表に移らせていただきます。３団体目は、東京都市大学ＩＳＯ学生委員会の皆さんです。では、御準備をよろしくお願いいたします。また御質問等ありましたらチャット欄に御記入をよろしくお願いします。

○東京都市大学ＩＳＯ学生委員会　よろしくお願いします。私たちは、東京都市大学ＩＳＯ学生委員会教育部会です。本日は地球温暖化の現状と身近に起きた被害について説明するとともに、ＩＳＯ学生委員会について御紹介いたします。

まず、近年、温暖化による気温上昇に伴う大型台風や干ばつなどの異常気象によって、豪雨被害や水不足による食料の高騰や食料不足等、生活全般に影響が懸念されています。身近な例として、2019年10月12日に首都圏を直撃した台風19号による大雨で多摩川が増水しました。この増水の影響により、東京都市大学世田谷キャンパスの建物の半数に当たる８棟が浸水したという例があります。

次に、私たちが所属しているＩＳＯ学生委員会について紹介いたします。東京都市大学横浜キャンパスが取得した環境マネジメントの認証であるＩＳＯ14001認証の維持管理と環境問題への実践的な対策を目的に大学のキャンパスや学外で活動している団体です。

○東京都市大学ＩＳＯ学生委員会　主な活動内容として、環境講座、省資源・エネルギー化、企業協力、情報発信などに取り組み、環境問題に対してマルチに活動しています。

ＩＳＯ学生委員会には、省資源部会、省エネルギー部会、環境教育部会の３つの部会があります。それぞれの部会の活動内容についてより詳しく説明します。

省資源部会では、資源に焦点を当て、回収、摘発を行っています。特にキャンパス内を中心に資源の面から環境問題を見直し、環境に優しい、よりいいキャンパスを目指して活動しています。具体的な活動として、資源回収ボックスの中の分別状態を調査し、統計を出す混在率測定、ボトルキャップを分別回収し、リサイクルに回すキャップ回収、分別を促すポスターや環境に関するポスター作成があります。資源を分解して回収することで、ごみ、CO_2排出量を減らし、気候変動への対策につなげていきたいと思っております。

省エネルギー部会は、横浜キャンパスの校内の省エネ活動を主に行っています。各施設と連携し、持続可能な省エネルギー手法を各施設に提案することで省エネルギーの実現を目指すことを目的としています。具体的な活動として、グリーンカーテン、電力・照度測定、エネ報の発行、冬企画に取り組んでいます。省エネ活動を活発に行うことで、気候変動の原因となる温室効果ガスの排出を抑制することができると考えています。

最後に、環境教育部会についての活動を紹介します。環境教育部会の主な活動内容は、新入生教育、環境講座、エコキャンパスツアーの３つです。私たちも環境学部に所属しています。環境についてより多くの人に正しい知識を持ってもらうことを目標に様々な講座やフォーラムを通して、地域の方や、大学内の環境について話し合っています。

○東京都市大学ＩＳＯ学生委員会　実際に環境の変化や異常を感じる人々も多いと思いますが、気候変動問題は今まさに非常事態を迎えています。国連に加盟している193か国が2030年までに達成するための目標ＳＤＧｓ、このＳＤＧｓでは誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を掲げています。それに向けて、一人一人も環境問題を自分事として考え、行動を変化していく必要があります。

そして、ＳＮＳが普及している現代だからこそ、情報を発信したり、受け取ることを容易に行うことができます。日常生活の一部に環境問題について触れる機会をつくることは、子どもから大人まで誰もができることではないでしょうか。一人一人が行う小さな取組でも、たくさんの人が取り組むことにより大きな力となると私たちは考えています。本日の発表も参考にしながら、自分たちでできることを考えて行動してみてください。

以上で私たち東京都市大学ＩＳＯ学生委員会教育部会の発表を終わります。御清聴あり

がとうございました。

○飯田　ＩＳＯ学生委員会の皆さん、ありがとうございました。

　では、ここで一旦３団体の御発表が終わりましたので、１団体、１問ずつ簡単に御質問をさせていただければと思います。せっかくなので、冒頭の露木さんのお話の中で、やっぱり環境活動を続けていく、広げていくためには、楽しいこととか、好きなことだと続いていくよねみたいなお話があったと思うので、ぜひ各団体の皆さんに、ふだん活動していて楽しいなと思うこととか、楽しいなと思ってもらえてやりがいを感じることとか何かあれば、一言ずつ、エピソードとか御感想をいただけるとうれしいなと思っています。もしよかったら、さっきの発表順で、最初に、ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトの櫻井さんから、ふだんやっていて楽しいなとか、やっていてよかったなと思うことを教えていただけませんか。

○ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクト　やっていてよかったこと、何ですかね。自分も大学で環境とか開発学を学んでいるんですけれども、それをみんなに話したりするというのは個人的には意外と面白いなと思って、その自分で学んだことが実際に企業さんとの連携とかをしているときに、個人的にはですけれども、その自分の知識が役立つというのは大きいなと思いますね。

　勉強会プロジェクトとしてやっていてうれしいのは、メンバーが増えていくというのももちろん楽しいんですけれども、いろんな方にこういう活動を知っているよみたいなことを言ってくださるのも個人的にはうれしくて、やっていてよかったなというのはありますね。

○飯田　ちなみに、勉強会プロジェクトさんがほかの団体と違うところは、小学生から大学生まであるという年齢、世代の多様性だと思うんですけれども、小学生の子とやっていて楽しかったなとか、小中学生とか自分と違う世代とやっていてよかったなみたいに思うことは櫻井さん自身ありますか。

○ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクト　去年の夏になってしまうんですけれども、去年の夏のときに海とか海洋系の問題についてお話しする機会みたいなものがあって、小学生の子にマイクロプラスチックの話をしたときに、どうやったらプラスチックがなくなると思うと聞いたら、世界中の海にすごく小さい網を張らせて一気に持ち上げれば全部取れるよねみたいなことを言っていて、ああ、大人じゃ出ないよなと。できるか、できないかは置いておいて、そういう発想が出てくるというのはやっぱり面白いなというのがあって、中

学生、高校生はやっぱり勉強してきていて、いろんな勉強をしているからこそ知識が身について、できる、できないが区別もできるようになってくると思うんですけれども、今の小学校とか中学校、高校の教科書は昔の教科書よりＳＤＧｓとか、そういうことに対しての書いている分量とかが多いので、そういうものを僕たちに教えてくれるというのは、僕としても勉強になったりはしていますね。

〇飯田　知っているからこそできる、言えることもあれば、知らないからこそ言えることもあるというのはＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトさんならではだなと思いました。ありがとうございます。

環境プロジェクトさんも、ふだんやっていて楽しいなと思うこととか、やりがいを感じることがあれば教えていただけますか。

〇慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト　私たちは先ほど広報班に所属していると言ったんですが、私は同時に教育デザイン班、子どもたちに出前授業を提供する班にも所属していて、先ほど露木さんが情報の格差が行動の格差につながるみたいなことをおっしゃっていたと思うんですけれども、子どもたちというのは、情報を知らないことは別に子どもたち自身、望んでいるわけではないので、私たちが授業をしに行くとすごく真剣な目で私たちを見詰めていて、どの情報も逃すまいとして、私たちの授業を全身で受けてくれるんですよ。私たちが準備してきて、そんなに真剣に受けてもらえることが本当にうれしいし、活動の楽しみにもなっているなと感じます。

〇飯田　本当に聞いてくれると、きっと刺激も受けるし、自分ももっと頑張らなきゃなと思いますよね。

では、都市大学ＩＳＯ学生委員会の皆さんも、ふだんやっていてよかったなと思うこととか、学生委員会さんだと86名もいてすごく多いなと。きっとみんな楽しいと思うから、これだけ広がっているんだなと思うんですけれども、その秘訣とか、個人のことでもいいので、やっていてよかったな、楽しいなと思うことがあれば教えていただけますか。

〇東京都市大学ＩＳＯ学生委員会　秘訣というか、自分がやっていてやりがいを感じるときなんですけれども、ＩＳＯ学生委員会として地域のイベントに参加するとなったときに、みんなで協力してやっていこうというふうにやっていくんですけれども、やっているときにやっぱりお客さんが来るわけで、そのときに言われた言葉なんですけれども、おばさまが来て、若いときからこれをやっていて偉いね、こんなに環境のことを考えていて偉いねと言われて、すごく認められた感じがして、こうやって思ってくださる方もいるんだ

なというふうに感じたことが自分の今のやりがいになっています。

あともう一つあるとしたら、マイバックとかエコボトルというのをやっていかなきゃなというところで、家でもごみの分別だったりをしていくと、分別していて偉いじゃん、珍しいじゃんみたいなことを母親が言ってくれる、ちょっと褒めてくれるんですね。こんなので褒めてもらえるんだというふうな、褒められる、認められるということがすごくやりがいというか、楽しい一面ですかね。

〇飯田　それこそ、さっきの環プロさんは下の世代に向けてやることでやりがいを感じられていて、ＩＳＯ学生委員会さんは逆に上の世代の方からの刺激ということで、やっぱり他者の反応というのはやりがいになるんだなというのを伺っていて、改めて感じました。では、後ほどまたトークセッションのところでより深くお話しいただければと思います。３団体の皆さん、ありがとうございました。

続いて、事例発表に戻っていきたいと思います。４団体目の御発表になります。４団体目は、上智大学環境保護サークルGreen Sophiaの皆さんです。御発表の御準備、よろしくお願いいたします。途中、御質問等ありましたら、ぜひチャット欄に御記入ください。よろしくお願いいたします。

〇上智大学Green Sophia　私たちは上智大学環境保護サークルのGreen Sophiaです。現在、約40人ほどが所属しています。

私たちのモットーは環境活動を楽しむことであり、その楽しさを周囲の人だけでなく、より多くの人々に伝えることを目標としています。後でも述べるのですが、Learn with us,act with Green Sophia,inspire others、共に学び、共に行動することで誰かを刺激するという理念の下、活動しています。

まず、ここでは学びの部分について具体的な活動内容を紹介させていただきます。ふだんファストファッションやマイクロプラスチック問題に関しておのおのがリサーチし、知識を共有しながらディスカッションを行うといった座学的な学びに加えて、環境に配慮した食材について学びつつ、それを調理して、よりおいしく食べる方法を模索するといった実践型の学びも行っています。スライドで紹介されているエシカルフード試食会では、動物の肉に比べ環境負荷の少ない大豆ミート食品を主に販売している会社さんと合同で試食会を行いました。

会社の方に環境面と健康面に配慮した食品のメリットを教わった後、それらの食材を用いて家庭料理を作りました。プラントベースミートは日常メニューで使いづらいという意

見があったことから、より親しみやすいレシピにアレンジしました。このように、学ぶだけでなく、環境活動を日常生活に楽しく取り入れる取組についても考えています。

○上智大学Green Sophia　ビーチクリーンを定期的に開催していて、ビーチ以外にも町や川、公園なども行っています。マイクロプラスチックという５ミリ以下のプラスチックの破片など、気づきにくいごみが意外と多いことにとても驚きました。

2024年の上智の文化祭ではセレクトショップを実施しました。エシカルなお菓子、大豆の植物性油由来でできたキャンドル、要らなくなった、または賞味期限が切れたアイシャドウをアップサイクルして作ったアクセサリー、コルク人形、Green Sophiaオリジナルのステッカーなど、様々なものを販売しました。中でも大豆のキャンドルやアイシャドウのアクセサリーはメンバーが手作りしていて、たくさんの人が購入していただきました。

Green Sophiaでは、環境に関する活動はもちろん、おのおのが興味を持った様々なことにチャレンジしています。例えば環境活動といっても、映画鑑賞や清掃、インターン、食事など様々な視点から取り組んでいます。

○上智大学Green Sophia　このようにGreen Sophiaは様々な活動をしているんですけれども、Green Sophiaの最大の魅力の一つは、まずメンバー同士の距離が近いこと、そして、興味とやる気があれば誰でも企画に参加できるということです。Ｚｏｏｍで話すことも多いんですけれども、対面でのミーティングも行うことでメンバー同士の仲が深まっていると感じています。また、先輩、後輩関係なく自分の意見を言ったり、企画案を出し合ったりと、とてもアットホームな雰囲気で活動しています。楽しむということを重視していて、誰でも気軽に興味のあることに取り組める環境になっています。

Green Sophiaの魅力はまだまだたくさんあるんですけれども、ここで伝え切れないので、よかったら、インスタグラムやラジオのほうもぜひチェックしていただけると幸いです。冒頭でもお伝えしたように、私たちはLearn with us,act with Green Sophia,inspire others、共に学び、共に行動することで誰かを刺激するという理念の下、活動していまして、少しでも私たちの活動、そして環境活動に興味を持っていただけたら幸いです。

御清聴ありがとうございました。

○飯田　Green Sophiaの皆さん、ありがとうございました。

では、続いて５番目の発表に移らせていただきます。５番目の御発表は、東京農業大学ボランティアサークルいそべやの皆さんの御発表になります。御準備をよろしくお願いいたします。

今日、各発表の団体は、それぞれＳＮＳアカウントなども持っていらっしゃると思いますので、御視聴の皆さんに検索していただいて、フォローいただくと、より深い内容が分かるのではないかと思いますので、ぜひトライしてみてください。

○東京農業大学ボランティアサークルいそべや　こんにちは、東京農業大学ボランティアサークルいそべやの渡部と。

○東京農業大学ボランティアサークルいそべや　古川です。

○東京農業大学ボランティアサークルいそべや　よろしくお願いします。本日は、工作教室、ごみ拾い、そのほかの活動の３つを紹介します。

まず、いそべやが行っているお子様向けの工作教室について紹介します。こちらの写真は、経堂コルティで活動している様子です。

こちらは工作教室を行っている場所の一部です。特にいそべやでは、東京農業大学のキャンパス内で開催されている農大マルシェに定期的に参加しています。農大マルシェは毎月第４土曜日に開催されています。

いそべやでは、次の２つの点を意識した工作教室を開催しています。１つ目は、不用品を利用するということです。２つ目は、工作を通じて環境のことを考えるきっかけになるようにするということです。

こちらが実際の様子です。上の写真２つは、リサイクル千歳台にて廃油や使用期限切れの油を利用してキャンドルを作ったものです。左下の写真は、経堂のコルティにてペットボトルを利用してけん玉を作った様子です。右下の写真のように、東京農業大学の学園祭である収穫祭では、ペットボトルの蓋とドングリを利用して工作をしました。

○東京農業大学ボランティアサークルいそべや　ここでペットボトルから作られる洋服について紹介します。ペットボトルを粉砕し、それを溶かし、繊維にすることでペットボトルから服を作ることができます。このようにペットボトルをリサイクルすることができます。

しかし、それは本当にいいことなのでしょうか。メリットとデメリットをそれぞれ紹介します。メリットとしては、ペットボトルをはじめとしたプラスチックごみを海に捨てることで起こる海洋汚染を減らせることです。再生ポリエステルの生産は不要になったペットボトルをリサイクルできるだけではなく、海に捨てられるペットボトルを減らすという効果もあります。デメリットとしては、衣類を洗濯すると大量のマイクロプラスチックが放出されるということです。洗うときに洗濯ネットに入れることでマイクロプラスチック

の放出を抑制できます。また、今持っている服を長く大切に着るということは誰でもできる環境対策です。このような技術とバランスを取りながら、サステーナブルな取組をこれからも進めていけるといいと思います。

次に、ごみ拾いについて紹介します。いそべやでは、下北沢や表参道、渋谷などで行われているグリーンバードのごみ拾いに参加しています。そのほかにも夏合宿でごみ拾いボランティアをしています。

グリーンバードとは、各地でごみ拾いをしている団体です。ごみ拾いをかっこよくしようという目標の下、ベストを着用しながら活動しています。そのことでごみ拾いを認知してもらいやすくしています。また、無理をせず、地域とのつながりを大事にしています。

そして、いそべやでは、毎年、静岡県伊東市の按針祭というお祭りでボランティアを行っています。右の写真は、花火大会当日にごみを集めたときのもので、左の写真は、花火大会翌日に町のごみを拾い集めている様子です。

○東京農業大学ボランティアサークルいそべや　最後に、そのほかの活動について軽く紹介します。

左の写真は、エコフェスタちとふなにおいて環境に関わるクイズをしている様子です。また、右２つの写真のように、イベントにて不用品交換の手伝いをしました。楽しみながら社会貢献や地域交流を通じて、地域密着型の環境教育をこれからも行っていきます。

以上でいそべやの発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

○飯田　いそべやの皆さん、ありがとうございました。

では、続いて、お待たせいたしました。６番目、最後の御発表になります。世田谷区環境サポーターの皆様の事例紹介に移りたいと思います。では、御準備をよろしくお願いいたします。同じように、質問等がある視聴者の皆さんは、チャット欄のほうにお気軽に何でもどしどし御記入いただけるとうれしいなと思っております。よろしくお願いいたします。

では、環境サポーターの皆さん、よろしくお願いいたします。

○環境サポーター　これから世田谷区環境サポーターの事例発表を始めます。

世田谷区環境サポーターとは、世田谷区の募集により、大学生等の若者世代で構成されたボランティアです。主な活動としては、環境出前授業の講師、環境啓発イベントへの参加・運営、環境情報発信を行っています。

そして、この環境サポーターは今年度で発足３年目となりますが、生まれた背景としま

しては、令和２年10月、世田谷区によって世田谷区気候非常事態宣言が出され、2050年までに二酸化炭素の排出量実質ゼロを目指すということが表明されました。そこで、目標達成のためには、大人から子どもまで一人一人が気候危機問題を自分事として捉え、環境への影響を考えて行動することが必要であって、若者世代の参加と協働が重要ということで環境サポーターが発足しました。

では、どのような活動を行っているか、３つ紹介します。活動その①、それは環境出前授業です。世田谷区立の小学校の４年生から６年生を対象に申込みのあった小学校で出前授業を行っており、地球温暖化を学び、また、エネルギー、食品ロス、森林といった身近なテーマから、今と未来の地球のために自分たち一人一人ができることを考えるということ内容にしています。

そして、こちらの表は2023年度の実績を示しています。皆さんが御存じの小学校があるでしょうか。小学校８校計26クラス、約809名に向けて出前授業を行うことができました。今年度は、昨年度よりも開催校が増える見込みです。

そして、こちらが実際の授業の様子です。左の写真は、小学生のグループワークにファシリテーターとして参加している様子です。小学生が意見を出すきっかけをつくったり、意見を聞き出したりして、私たちにも環境のためにできることがたくさんあるということを理解してもらえるように努めています。

そして、主な活動２つ目、それは環境啓発イベントです。せたがやふるさと区民まつりに参加して、子どもたちに向けた間伐材でコースターを作るワークショップを行ったり、本日、隣で開催されていた若者環境デーの企画、運営を行ったりしています。

若者環境デーとは若者たちが主体となった環境学習イベントで、参加体験型企画やワークショップ、ポスターセッションなどを実施しています。こちらに今出ているのは昨年の写真の様子ですが、今年度の若者環境デーの正式名称を「若者環境デー　今日からみんなも環境はかせ～あなたの一歩が未来を変える～」とし、これには、このイベントを通じて子どもたちが博士として学んだことを家族や周りの人にも伝えていってほしいという願いが込められています。

最後に、主な活動その③、環境情報発信です。環境に配慮した取組を行っている企業等からお話を伺ったり、それを記事にまとめて、ウェブサイト上、ｎｏｔｅ上で公開をしたりしています。まだ記事数は少ないですが、世田谷区が運営するせたがや環境学習ひろばのＱＲコードと、右側に、直接ｎｏｔｅへつながる、ｎｏｔｅへ飛べるＱＲコードを添付

しましたので、そこから飛んで、ぜひ記事を読んでみてください。

以上で世田谷区環境サポーターの事例発表とさせていただきます。御清聴ありがとうございます。

○飯田　世田谷区環境サポーターの皆さん、ありがとうございました。

では、前半と同様に後半の３団体の皆さんにも１問ずつ御質問できればと思います。露木さんのお話も踏まえて、前半と同様に、皆さん御自身が活動されていて、よかったな、楽しかったなと思うこととか、活動していていろんな方と関わっていると思うんですけれども、その中でやりがいを感じていることなどあれば教えていただけるとうれしいです。

では、発表順に、Green Sophiaさんから、何か思い当たることがあればお話しいただけますか。

○上智大学Green Sophia　私たちは、勉強会とか展示会を通して様々な方と関わる機会があるんですけれども、そういうものを通して、環境問題の原因となっているプラスチックだったり、界面活性剤というのは、そういう物質は善悪で単純に切り捨てられるものではなくて、生活になくてはならないものであるため、私たち消費者側の処理方法や使い方に対する意識を変革することが大事だなというのをより感じるようになりました。

○飯田　環境問題というのはいろんな人が関わっていて、ゼロか100かというよりかは、みんなが納得しないとなかなか進んでいないというところがあるので、きっとそこら辺の難しさについて感じられたのかなと思いました。ありがとうございます。

いそべやさんもふだんやっていて楽しいなと思うこととか、やりがいを感じることは、どのあたりにありますか。

○東京農業大学ボランティアサークルいそべや　ふだんやっていてやりがいを感じることは、自分たちが活動している姿に関心を持ってもらって、それで声かけをしてくれるというときに特にやりがいを感じます。具体的な例で言うと、発表でもありました静岡県伊東市の花火大会のボランティアで花火大会のごみ拾いをしているときに、参加者の方、一般のお客さんの方にごみ拾いに関心を持ってもらって、では、自分たちも手伝うよと、そういうことで手伝ってくれた方がいるということで、自分たちがやっていることが正しかったんだとか、自分たちがやっていることを認めてもらえたんだという達成感というか、やりがいを感じました。

○飯田　まさに手伝ってくれるというのは、本当に意識が変わるだけではなくて、一緒に共に行動する、行動を変容するところにもつながっているので、きっといそべやさんの活

動に共感したからこそ、その輪が広がったのかなと思いました。うれしいですよね。

最後に、環境サポーターの方も、ふだんやっていて楽しいなと思うこととか、やりがいを感じることとか、きっと今日のイベントに向けて御苦労もあったと思うんですけれども、その上でも何かあればお話しいただけるとうれしいです。

○環境サポーター　楽しいなと思うことは２つありまして、１つ目は、やはり環境サポーターは、それぞれ学部とか、魅力的なメンバーが集まっているということが楽しいポイントだと思います。環境問題だったり、資源利用といったまさに専門的に学んでいる学生がいたりとか、あと世田谷区が募集しているということもあるので、行政のほうに興味がある、公務員を志望している方がいたりするので、同じことについて議題があったとしても、いろいろな方面から話合いができて、お互いを尊重できるというところがまず１つ、楽しいところかと思います。

２つ目は出前授業での子どもたちの反応というのがやっぱり私たちの活動の糧になっていて、授業が終わってから、これから授業後はこんなことを実施していきたいですというようなフィードバックをもらえたりすることも結構多いので、それは私たちの活力になっていますし、まさに今回の議題の１人の100歩より100人の１歩ということを実感できるかなと思います。

あとは、情報発信でお話を伺いに行って記事を作るという機会があったんですけれども、そのお話を伺った方が、自分たちが環境問題をやるに当たって、今、私たちは環境問題に対するいいことをやっている、これって徳があるようなことだよねみたいな感じで、自分たちでテンションを上げていくという楽しみ方もあるんだなというふうに感じました。

○飯田　今日も環境デーのほうもざっと見させていただいて、きっと運営するメンバーが楽しいからこそ、それがお客さんとか子どもたちに伝わっていくんだなと改めて感じましたし、何をやるかも重要だけれども、やっぱり誰とやるかが重要だなと今伺っていて改めて思いました。

では、６団体の皆さん、御発表いただき、ありがとうございました。皆さん、大きな拍手をお願いします。

最後に、ちょっと時間が押していて、残り20分ぐらいになるんですけれども、６団体の御発表を踏まえて、また、その前の露木さんの話題提供も踏まえて、ここから全体で皆さんと一緒に共通の話題でお話を進めていって、まとめのほうに向かっていければと思いま

す。

まず、これから皆さんと一緒にトークテーマを２つ出して話していきたいんですけれども、１つ目が、６団体の御発表の前の露木さんの話題提供を聞いて、少し上の先輩に当たると思うんですけれども、同じ環境活動をしていて、いろいろと印象に残ったこととか、刺激になったこと、共感する部分、自分も真似したいと思う部分もきっとあったかと思います。各団体の代表の方１人になってしまうんですけれども、露木さんのお話を聞いて、ここが刺さりました、このキーワードが印象に残っていますみたいなことをまずはお話しいただけるとうれしいなと思っています。今、お手元に紙をお配りしているので、ぜひキーワードを手元の紙に書いていただいて、それを掲げていただいてから、書いたその心はという感じで御発表いただけるとうれしいなと思っています。皆さん、露木さんのお話を聞いてどうですか。もう既に書けている感じですか、今から書く感じですかね。

露木さんのお話をちょっと振り返ると、もともと高校時代に３年間、世界一のエコスクールと言われるバリ島のGreen Schoolに通われて、それがきっかけで環境活動を始められたということでした。日本に戻られた後、政策提言とか社会的な発信、講演の活動などをやりながら、妹さんに向けてというのが最初のスタートでしたけれども、環境にも、人にも優しい口紅づくりということで、今、社会に、環境にいい選択肢を与えるような商品開発をされているというお話を伺いました。露木さん御自身が講演が好きとか、人と話すのが好き、人と会うのが好き、物づくり、工作とかが好きというその好きを生かして環境活動を本当に生き生きとされている様子が私自身もすごく印象に残っているところです。

では、最初は発表順で行かせていただこうかと思います。各団体の代表の方に露木さんのお話を聞いて印象に残ったことを、紙を掲げていただいて、こんなことを書きましたと御紹介いただいた後、その理由というか、思いを補足説明いただけるとうれしいなと思います。オンラインですみませんが、ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトの櫻井さん、御準備いかがでしょうか。よかったら１分ぐらいで、さくっとまとめていただけるとうれしいです。よろしくお願いします。

○ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクト　多分、見えていると思うんですけれども、「教え方を変える！！」です。どういうことかというと、小学生とか中学生、高校生、大学生もそうですけれども、もちろんなんですけれども、習っていることがやっぱり違うんですよね。その刺さるものが違うというのは確かにそうだなと思っていて、小学生にすごく難しいことを言ってもやっぱり刺さらないのはそうで、でも、中学生とかにめっちゃ簡単なこ

とを言っても、それは知っているよで終わっちゃうなと思って、勉強会プロジェクトとして勉強会をするときは、基本的にターゲットを小学生から中学生ぐらいに絞ってやることが多いので、簡単めというか、結構分かりやすめに説明することが多いんですけれども、個人的に今の小学生はもうちょっと難しくても実は伝わるのではないかと思って。それも自分が小学校に勉強会に行ったりするときに、意外と知っていることが多いんだなみたいなものも、先生たちが言ってくれたりとか、この辺実は知っていますよみたいに先に教えてくださることが多いので、そういうところで、自分たちが習っていた小学校の記憶と今の小学校の記憶というのはやっぱり違うんだなと、そこを変えていかないといけないのかなと思ったので、教え方を変えるというのにしました。

○飯田　では、続いて、ＳＦＣの環境プロジェクトの皆さん、最初に紙を掲げていただいてから、何を書いているか御紹介いただけますか。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト　私たちは２点ありまして、１つ目は、高校生のリアルな視点というのは今しかない、そのため、大人になるまで待たなくていいという露木さんのお言葉のとおり、実際の当事者の視点だったり、感性というのは、そのときに持っているものが一番リアルなものに近いと思うので、何か思ったことがあったら、すぐに実現したり、行動したりしていきたいと思いました。

２点目の実際に行動することの大切さについてですが、露木さんの実際に口紅づくりをしてみて分かった生産であったり、処理の現状を知ったという点と同じく、実際に私たちも行動をすることで知れることはたくさんあるのではないかと思ったので、この２点について今後取り組んでいきたいし、大切なことだなと感じました。

○飯田　では、続いて、都市大学ＩＳＯ学生委員会の皆さん、ぜひよろしくお願いします。

○東京都市大学ＩＳＯ学生委員会　私が露木さんの印象に残ったものは、まず、ごみの山からごみを集めて暮らしている人がいるということや、ごみを収集する施設とか機能がないといった、今、世界で起きている社会の現状、問題だったり、環境問題の背景というのをまず知ることがとても重要だと思いまして、その知るためにボランティアやシンポジウムなどに積極的に参加するといったことや、また、それが難しい場合では、講演会で実際に体験された方のお話を聞いて、リアリティーな状況を知ることが大事だと思いました。

○飯田　行動することの大切さみたいなところは、ＳＦＣの環プロさんとＩＳＯ学生委員会さんと共通するキーワードだったかなと思って、今伺っていました。

では、続いて、Green Sophiaさん、いかがでしょうか。

○上智大学Green Sophia　私は、妹のためにといったことを書かせていただきました。露木さんのお話で印象に残ったのが、まず、行動のきっかけになったのが妹さんのためにということで、社会課題というのはすごく目に見えないところに潜んでいて、なかなか気づきにくいところがあると思うんですけれども、妹さんという一番身近な存在に目を向けるところから課題が見つかってきて、そういう身近な人の悩みというのが社会の誰もが抱える悩みにも共通しているところがあると思うので、身近な人のためにという思いを持つことが大事なんだなと感じました。

以上です。ありがとうございます。

○飯田　環境問題というのは、世界のとか社会のというと主語がすごく大きくなってしまって、イメージしにくいですけれども、目の前の地域とか人とかにフォーカスされるとやりがいがあったりとか、活動が前に進んでいくのかなというのは私もすごく共感するところでした。

では、いそべやさん、露木さんの御感想、いかがでしょうか。

○東京農業大学ボランティアサークルいそべや　特に印象に残ったことは、好きを行動にするということです。いそべやでは、今回、ペットボトルのキャップを使って工作を楽しんでもらいましたが、小学生とか子どもさんに、ただペットボトルのキャップを外して、ラベルを外して分別してねというだけでは楽しさがないというか、やる気が起こらないので、例えばその分別をした結果、ペットボトルのキャップを集めて工作ができるとか、そういうことで分別の楽しみを見つけていただければ行動しやすいのではないかと思いました。

○飯田　では、最後に、世田谷区環境サポーターの皆さん、いかがでしょうか。

○環境サポーター　私は、行動に移してもらうための伝え方というふうに書いたんですけれども、私たちは小学校にふだん出前授業をしていて、グループワークを取り入れるなどして、今と未来の地球のために自分たち一人一人に何ができるかということを内容としているので、少しおこがましいですが、地球について知ってもらいたいという思いや、希望を持って実際に行動してほしいという思いが露木さんと共通していると感じました。

その中で、露木さんは実際に御自身が目で見たからこそのリアリティーが私にはとても印象的に残っていましたし、あと、環境について学ぶことの楽しさを提供したり、学年によって伝え方や伝える内容を変えているというお話がありましたが、私たちも行動に移し

てもらうための授業づくりという点に、もう１回、着目して見直していきたいなと思いました。

○飯田　６団体の皆さんの発表を聞いて、行動みたいなところは共通していたのかというところと、今言ってくださった好きみたいなところとか、高校生とか大学生ならではの感性を大切に遠慮せずにみたいなところも、確かに私自身も刺さるところがあったなと思って伺っていました。

本当はこのままどんどん話を盛り上げていきたいところなんですけれども、時間もありまして、最後にもう１問だけ皆さんにお伺いして、このフォーラムを締めていきたいと思います。

改めて振り返ってみると、このフォーラム自体、皆さんの発表の随所にも出てきましたが、１人の100歩より100人の１歩ということで、いかにより多くの人を巻き込むかとか、より多くの人に参加してもらうかみたいなところがコンセプトになっています。その上で、露木さんのお話を聞き、皆さん御自身の発表もあれば、ほかの５団体の皆さんの発表を聞いて共感するところとか真似したいなと思うところもあったかと思います。

最後に、皆さん個人として、もしくは皆さんの団体として、これからこの環境の輪を広げていくというふうにしていくときに、こんなことをやってみたいなとか、こんなことがやっぱり大切だと思ったとか、こんなことをネクストアクションとしてトライしたいみたいなことがあれば、最後に一言ずつお話しいただいて、このフォーラムを締めていければと思っています。また先ほどと同じように、手元の画用紙に大切だと思うキーワードを一言御記入いただいて、掲げて、各団体１分ぐらいで御発表いただいて、このフォーラムを締めていければと思っています。

いつも同じだと怒られそうですが、よかったら、さっきの発表順で、ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクトの櫻井からから順番にお話を伺えればと思うんですけれども、櫻井さん、御準備いかがでしょうか。

では、１人の100歩より100人の１歩を実現するために、巻き込みのために大切なことをぜひお話しいただけるとうれしいです。

○ＳＤＧｓ子ども勉強会プロジェクト　新しい関わりですかね。僕たちも含め、皆さん環境とか、その辺で活動されていると思うんです。そうすると、環境をどうにかしたいから環境の視点でしか見ないということになってしまうと思うんです。でも、それだけだと、多分、ＳＤＧｓを含め、全部の問題は解決しないから、さっきの小学生みたいなものも多

分同じことで、別の視点、全然関係ないようなところの視点、例えばおもちゃとか、文房具とか、それこそ、パソコンとかＡＩとか、全然関係ないところの視点から環境とかそういうのを見ていければ、もしかすると新しい視点とかが生まれて、実は一気に環境問題の解決につながるのではないかと個人的には思っていて、なので、そういうところで新しい関わりとかというのを目指していけたらと思っています。

○飯田　では、会場に戻って、発表順ということで、ＳＦＣの環境プロジェクトの皆さん、今後の巻き込みに向けてとか、これからチャレンジしたいことをお話しいただけますか。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト　私たちが考える、巻き込むために必要なことは２点あります。

１つは、真面目になり過ぎず、楽しむということです。こちらは露木さんの内容に似てしまう部分もあるんですが、行動するときだけでなく、実際に環境問題について学ぶときも楽しくいることが大切なのではないかと考えています。社会問題というと、それについて考えることが真面目だなとか、勉強じみているという印象を持っている人も少なからずいると考えていて、それは少し環境問題について学んだり、取り組んだりすることへのハードルになっていると思っていて、問題について知ろうとするためには勇気が要るのではないかなと考えています。なので、環境問題について学んだり、取り組んだりする際は、真面目になり過ぎず、レクチャーや勉強ばかりではなく、ゲームを使ったり、映画を使ったりなどすることが大切だと思っています。

２点目の若者にどう身近に感じ、捉えてもらうかということについてですが、今後の環境問題について、それが悪化していくのか、改善していくのかは、今後を生きる若者にかかっていると思います。実際、日本の教育現場のカリキュラムについて、他国に比べ幼少期の環境問題についての教育が少ないと私は感じていて、リアルな情報であったり、体験や、情報を受け取るところで止まっている印象があります。実際に私も小学校時代を海外で過ごし、海外でいろんな形で環境問題について学び、体験をしてきました。それが現在、私が環境プロジェクトに所属し、活動をしたり、環境問題について取り組む興味や関心につながっていると思うので、実際にリアルな体験をしたり、学びをするということは大切だと思っています。その点で、環境プロジェクトであったり、今日ここに集まっている団体の皆さんがしている活動はとても意味があることで、大切なことではないかと思っています。

以上です。

○飯田　では、続いて、東京都市大学ＩＳＯ学生委員会の皆さん、よろしくお願いします。

○東京農業大学ボランティアサークルいそべや　私たちのキーワードは、積極性です。今回のテーマである１人の100歩より100人の１歩というところで、100人の１歩を踏み出せるのは、こういう団体で活動している僕たち、皆さん方なのかなというところで、やっぱり地域でのイベントに参加することでたくさんの人が刺激を受けて、新たな一歩を踏み出す勇気につながるのではないかと思いました。そして、団体である私たちが積極的にこういうイベントに参加して、そして、新たな取組にも積極的に参加することが必要だと思ったので、こちらの積極性というキーワードを選ばせていただきました。

○飯田　続いて、上智大学Green Sophiaさん、よろしくお願いします。

○上智大学Green Sophia　私たちのキーワードは、ゆるく、楽しくです。やっぱり自分が楽しいと思わないと環境活動というのは続かないと思うので、楽しいと思うことをみんな友達とかほかの方に共有することによって環境活動が広がるといいなと思っています。私たちは例えばビーガンカフェ巡りとか、そういう身近な、小さな、ちょっとおしゃれな、それで自分たちが楽しいと思えるようなことから楽しく続けられる活動、１人の100歩より100人の１歩につながるのかなと思いました。

○飯田　続いて、いそべやさんからもコメントをお願いできますか。

○東京農業大学ボランティアサークルいそべや　私が考えたキーワードは、エコ工作です。先ほど露木さんのお話にもあったんですけれども、行動が大切ということで、環境問題を知らないと行動も始まらないと思うので、私たちにできることとして、自分の大学で開催されているマルシェに参加して、そこでのエコ工作教室を続けることだと思っています。

先ほどの発表でもあったのですが、いそべやではエコを意識した工作を行っていて、ペットボトルやキャップを使った工作で遊びをしたり、普通のサラダ油、家庭で出される廃油を使ってキャンドルを作ったりして、そういう子どもたちが楽しく、環境問題の解決につながることができるようなことを考えています。なので、このようなエコ工作教室をこれからも続けて、環境問題を解決する大切さを広めていきたいと思っています。

○飯田　では、最後に、世田谷区環境サポーターさん、よろしくお願いします。

○環境サポーター　周囲を巻き込むために今後やっていきたいこととしましては、質と量

というのがキーワードになっていて、質というのは、今やっている活動をもっと魅力的なものにしていくということで、量というのは、よりこの活動を知っていただく機会を増やすということです。

質という点に関しては、例えばですけれども、出前授業に関しては、より小学生の記憶に残る授業というものを目指していきたいと考えていて、そのためには、まずは小学校の先生に来年も頼みたいと思ってもらえるような、より先生の希望にマッチした授業を展開していきたいですし、最近は授業で話したくても時間が足りなくなってしまって泣く泣くカットしてしまうような内容のものも増えているので、年に１回の授業ではなくて、２回、３回といった講座化するといったことも検討できたら面白いな思いました。

また、量という点に関しては、出前授業でしたら、出前授業を開催した小学校に対する認証制度とかをつくったりして、興味を持ってもらいやすくしたりするですとか、若者環境デーとか、このフォーラムでしたらもっと小学生にも参加してもらえるように小学校での開催にしてみるとか、情報発信についても、もっと投稿頻度を増やして、多くの人々の目に留まるようにしていけたらと思っています。区の職員の方々や事務局の方と協力し合いながら、環境サポーター自身も主体的に活動できる団体を目指していきたいです。

以上です。

○飯田　それぞれ大切なキーワードとかが散りばめられていて、本当に共感することが多かったです。本当はこのままに座談会っぽくいろいろ話していきたいところなんですが、閉会の時間も迫ってきていますので、このあたりで締めていければと思います。

私自身も参加させていただいて、自分の話をしてしまうと、高校生、大学生として活動していた十数年前よりも、やっぱり今の皆さんのほうが活動が進んでいるなと頼もしく思いましたし、多分、この進行の役割も３年か４年ぐらいやらせてもらっているんですけれども、毎年、同じ団体の方に御発表いただいても、後輩に引き継がれている様子を見て、きっと楽しいから引き継がれているんだろうなと思うこととか、発表も進化している様子を見て、確実に１人の100歩より100人の１歩が少しずつ広まっているなというところを実感したところでした。

露木さんの大人になるのを待つ必要はないというのは本当に刺さるところがあったので、ぜひ100人の１歩がより早く実現するように、ここにいる皆さんとか、今日、御視聴いただいている視聴者の皆さんは、そのキーマンになるような、インフルエンサー、キーパーソンだと思うので、ぜひ今日をきっかけに発信して、刺激し合って、つながって、続

けていっていただけたらうれしいなと思っています。

本当はもっと話したい、名残惜しいところですが、これで若者環境フォーラムのパネルトークのところは締めさせていただきたいと思います。今日、御参加いただいた皆さん、そして、露木さん、御視聴者の皆さん、本当にありがとうございました。これからも頑張っていきましょう。

では、司会の山本さんにお返しします。山本さん、よろしくお願いいたします。

○司会　飯田さん、パネリストの皆さん、ありがとうございました。

それでは、最後となりますが、世田谷区環境政策部長より本フォーラムの講評をいただきたいと思います。世田谷区環境政策部の中西部長、よろしくお願いいたします。

○中西環境政策部長　皆さん、今日はありがとうございました。いろんなことを言いたいんですけれども、時間が足りないので、全部には触れ切れないかもしれなくて申し訳ないんですけれども、重要なところだけお話ししたいと思います。

まず、皆さん大変情熱的で、かつ熱心に取り組んでいて、ありきたりな言葉で申し訳ですけれども、すばらしいと思いました。今回のキーワードで、露木さんの話にも出てきて、皆さんの中でも度々出てきた重要なキーワードで、楽しむという言葉がありました。環境問題を広げていく、継続していく、あるいは自分たちがやっていくためには楽しんでいくことが大事だというふうな言葉が出てきて、皆さん自身も、露木さんの言葉だけではなくて、もう既に自分たちで楽しみながらやっていますということもおっしゃっていたし、そういうふうにはっきりおっしゃっていなかった方も、写真を見るとすごく楽しそうにやっているなと思ったので、意識してやっているのかなとも思いました。

皆さん、孔子の論語に、これを立物はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かずという言葉があります。物事を知っているだけの人というのは物事を好きな人には及ばない、物事を好きな人というのは物事を楽しんでいる人には及ばないという意味の言葉ですけれども、楽しむのが一番いいよということを大昔の人も言っています。

だから、皆さんがやっていることというのは間違っていないと言っていて、皆さんが楽しんでくれていれば、きっと楽しそうだな、僕も参加したいなというふうに周りの人が近づいてきてくれる、寄ってきてくれることだと思います。今、大人がなかなか環境問題に熱心にならないということも、楽しくない、面倒くさい、そんなことをやっている暇がないというふうに思っているからやらないというところがあるんですけれども、実はそれは楽しいんだよということになれば、だったらやろうかなみたいになって、ころっと活動に

入ってきてくれることになるのではないかと思っているので、皆さんがどんどん自分たちの発想で、環境問題、環境行動ってこんなに楽しいんだよということをやってくれることが、僕たち行政にとっても、それを政策に生かしていって、多くの大人たちに広げていくことにつながると思っているので、今後、どんどん楽しんでやってほしいと思っているのが１点目です。

２点目は、露木さんの言葉のもう１つで、知ってもらうことが必要だ、そして、それを行動につなげることが必要だという話があったんですけれども、既に皆さん、取組の中で、出前授業みたいなことで子どもたちに教えることもやっていただいていますし、それ以外の活動でも、人目につくところで行動することで知ってもらうということ、あえて意識してやっているかどうか分からないけれども、目立つところでやることが結局周りの人を巻き込むことになっているという取組をやっていて、その方向性は非常に正しくて、僕ら行政もそういったことで広げていくという努力をしなければいけないと思っています。

環境サポーターさんは、出前授業の機会をもっと増やしたいというふうに言っておられて非常にありがたいんですけれども、ぜひ自分たちの次の世代ということも考えて、子どもたちに教えていくという取組をもっと広げてほしいですし、また、自分たちの同世代だとか、上の世代に対しても、僕たちがこういうことをやっているんだという行動を見せていくことで広げていく、そういう努力を今後も続けてほしいと思っています。

行動につなげていくための教え方とか見せ方というのはなかなか難しいんですけれども、多分、さっきの楽しんでやっていくということが行動につなげていくことのキーワードになるんだろうと思っていて、楽しく教えていくことだとか、楽しんでいくところを見せていくということが実は知ってもらうと同時に行動につながっていくのではないでしょうか。何が言いたいかというと、皆さんがやっていることは間違っていないよということを言いたいので、今後もぜひ楽しみつつ、取組を継続して、広げていただきたいと思います。

本当にいいキーワードばかり出てきていたので、一個一個に触れたいんですけれども、時間もないので、こんなふうにまとめさせていただきました。今後も頑張っていただきたいので、よろしくお願いします。

○司会　中西部長、ありがとうございました。

これにて若者環境フォーラム2024は終了となります。本日は御参加、御視聴いただき、誠にありがとうございました。

それでは、登壇者の皆さん、視聴者の皆さんに手を振りましょう。本日はありがとうございました。

午後５時56分閉会